

第百七十壹回
第十五輯參回

内容

- 大同の朝景色……………一
- 大同上華嚴寺の壁畫……………二



亞細亞大觀



- 大同の牌樓……………三
- 大同の古塔……………四
- 大同の石窟東側……………五
- 大同石窟の西側……………六
- 大同の西瓜市……………七
- 大同の東門……………八
- 大同の大仙廟……………九
- 大同南善化寺の佛像……………十

記事

雲崗石窟の保護

森田富義

撮影

島崎役治

大連市山縣通り一九三

發行所 亞細亞寫真大觀社

(毎月一回發行)

版權所有 不許複製

電話②六二三五
振替穴七二一八

編輯人 大連市山縣通一九三
青山捨夫

發行人 同 島崎役治

印刷人 大連市三河町二一
鈴木周戦

發行所 亞細亞寫真大觀社



雲崗石窟の保護

森 田 富 義

昭和十二年、支那事變の際日本軍は、張家口から大同に兵を進め、大同を陥れると同時に、大同雲崗にある石窟の保存を嚴重に守つた。これは明治三十五年伊東忠太博士が発見して世界の學界に紹介した支那三大石窟佛の一つとして有名なものであつたからである。

この石窟の佛像は北魏時代(約一千五百年前)の彫刻と指定され、美術的價値の非常に高いもので、萬人の欲してやまぬものである。昔し、北魏の大武帝は四方を平定して、都を平城(大同)に定めたので、この地が政治經濟學術宗教が盛んになつたのは尤もなことで、わけて佛教が盛んで、宗教の信仰的精神を加味した技術、藝術、美術が特に發達したのである。技術方面では古塔、寺院等の古建築が残存し、漸くその形骸を残し、その荒廢を惜しまれてゐるが、美術藝術としては、城内の寺院に立派に残存する佛像、壁畫等がその技の發達を譚つてゐるが、雲崗石窟内に存在する大小數萬の佛像こそ支那が世界に誇る佛教美術の尤たるものである。さればこそ、日本軍は大同を陥るに同時にこの貴重なる雲崗の保存に任じたのである。

この石窟は、大武帝が平城を首都と定めて支孫孝文帝が洛陽に遷都する迄の間に、佛弟子曇曜が文成帝に進白して太祖以下五帝の靈位供養のために五大石窟を開窟開鑿し洞窟内に大小の石佛を刻したのがその端緒となつたので、爾來支那では北齊隋唐時代までこの石窟開鑿が盛んに行はれ貴重な石佛を残したものである。

由來支那の總る古建築、古美術等は兵火のために焼かれ、或は盗人のために持ち去られ、荒廢の果はその形さへ残らず、口碑傳説にその存在せることのみを傳へ、史家を惜涙せしめたるのが尠くない。故に日本軍はわざわざ兵力を割いて貴重なる雲崗石窟の保存に當つたのである。若しこれを軍が嚴重に保護しなかつたら、物慾に耽る骨董商と稱する者が入込んで、利慾の爲めに破壊したかもしれないのである。或は盗人が搬出して遠く海の外に運んだかも知れないのである。

だが幸にも雲崗石窟は完全に保護され、燦然たる日章旗の下に、北魏の美術が高尙優美な句を放つてゐるので。

423
305

のが尠くない。故に日本軍はわざわざ兵力を割いて貴重なる雲崗石窟の保存に當つたのである。若しこれを軍が嚴重に保護しなかつたら、物慾に耽る骨董商と稱する者が入込んで、利慾の爲めに破壊したかもしれないのである。或は盗人が搬出して遠く海の外に運んだかも知れないのである。

だが幸にも雲崗石窟は完全に保護され、燦然たる日章旗の下に、北魏の美術が高尙優美な句を放つてゐるので。



大同の朝景色

(蒙 疆)

寫眞は大同東門の朝の景である。漸く夜が明け初めるころ、驛亭に宿した旅人は、朝の冷風のうちに驛を發足するのである、東の和門陽の古建築が朝靄のうちにかすかに浮ぶ。後に見て牛車に荷を積んで山西平原をこころこ蒙古路さして往く姿は寂しいものである
(印畫の複製を禁ず)

(一の回三の解五十四圖大亞細亞)

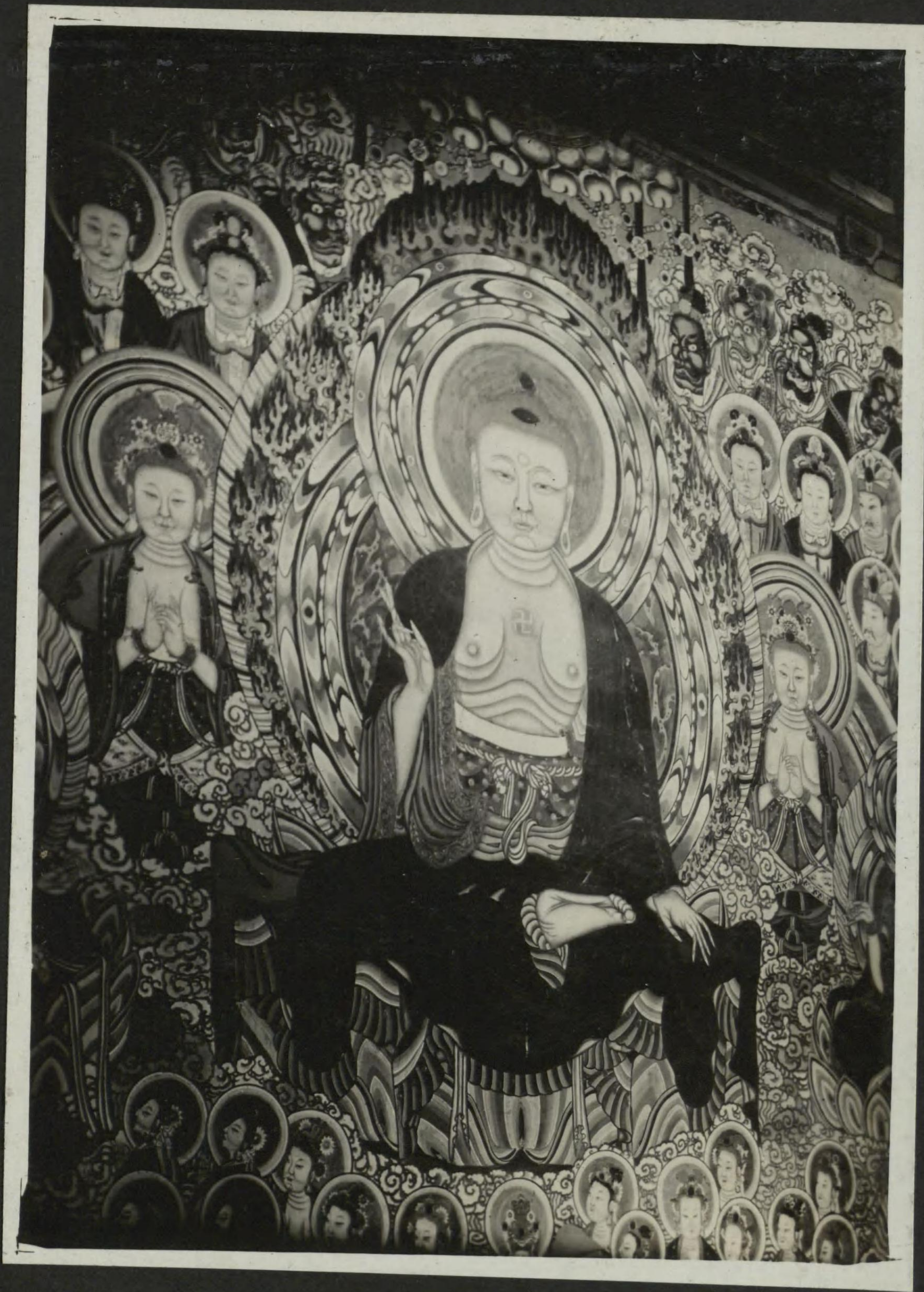
大同上華嚴寺の壁畫

(蒙 疆)

北魏の首都であつた大同には、佛教文化の遺跡として雲崗の石窟を始め數多の貴重な遺跡がある。寫眞は大同城内にある上華嚴寺内にある壁畫である。拙劣な説明を附するより、この寫眞を披見して貰つた方が遙に優だと思ふから何んにも云はないことにする。

(印畫の複製を禁ず)

(亞細亞五十年の三回二)





大同の牌樓

(蒙 疆)

この牌樓は大同城内中央鼓樓の附近の辻にある。兩側の軒別に日章旗を掲揚してゐるが、これは支那事變により大同が日本〇軍の守備のもとにあるところで、平和な牌樓下に軍人の姿のあるものなつかしいものである。

(印畫の複製を禁ず)

(三の回三の輯五十四圖大亞細亞)

大同上華嚴寺の壁畫

(蒙 疆)

北魏の首都であつた大同には、佛教文化の遺跡として雲崗の石窟を始め數多の貴重な遺跡がある。寫眞は大同城内にある上華嚴寺内にある壁畫である。拙劣な説明を附するより、この寫眞を披見して貰つた方が遙に優だと思ふから何んにも云はないことにする。

(印畫の複製を禁ず)

(二の回三の輯五十四圖大亞細亞)

大同の古塔

(蒙 驢)

この寫眞は大同城の東部城壁附近にある高さ二十尺位の古塔である。妙味を添える口碑はないが、光緒年間に揮源人の篤志家が建てたものと云つてゐる。この塔の存在の理由としては旅行者の目標にあるもので、旅人は遙かにこの塔を發見して、揮源に近きを知り疲れた足に元氣を取り直して足を急いだのである。塔には『白居一宣統庚戌歲貢揮源人』の文字のみしか發見出来ない。

(印畫の複製を禁ず)

(亞細亞人觀五十轉の三回四)





大同窟石側東

(疆 蒙)

大同雲崗第一洞入口東側を寫したものである。中にある佛像は六朝時代の調刻で、これを六朝風と云つてゐる。北魏の首都大同の佛教文化の華なりしころの遺跡で、信仰に燃ゆる精神文化の偉大な力が表現されてゐる。

(印畫の複製を禁ず)

(五の回三の卷五十四圖大亞細亞)

大同の古塔

(疆 蒙)

この寫眞は大同城の東部城壁附近にある高さ二十尺位の古塔である。妙味を添える口碑はないが、光緒年間に揮源人の篤志家が建てたものと云つてゐる。この塔の存在の理由としては旅行者の目標にあるもので、旅人は遙かにこの塔を發見して、揮源に近きを知り疲れた足に元氣を取り直して足を急いだのである。塔には『白居一宣統庚戌歲貢揮源人』の文字のみしか發見出來ない。

(印畫の複製を禁ず)

(四の回三の卷五十四圖大亞細亞)



大同石窟西側

(蒙 疆)

寫眞は大洞雲崗石窟の第一洞入口の西側を
寫しものである。洞窟内の佛像は北魏時代(千
五百年前)のもので世界最古の石刻物として
有名であるばかりでなく、その美術的價值も
非常に高い、作者は沙門曇曜が四十年の歲月
を費した程で雲崗の石窟佛として世に知られ
てゐる。

(印畫の複製を禁ず)

(亞細亞大觀五十卷之三の圖六)



大同の東門

(蒙 疆)

大同城の城壁には、東西南北に城門がある。城門は明の洪洪五年大將軍徐達が建築したもので、東を和陽門、南を永泰門、西を清遠門、北を武定門と云つて魏城(忻形)の三層樓である。寫眞は東の和陽門であるが、今では何れも破損にまかせて見るかげもないが、按ずるに建築當初は大同文化の華かなりしころだから、輪奐の美を誇つたものであらう。

(印畫の複製を禁ず)

(八の回三の輯五十観大亞細亞)



大同大仙廟
 (蒙 疆)
 大仙廟は大同の西門と北門の中間に孤立する古塔である。碑面には靈應寶塔大仙廟と刻し、經理郁元英、同王喜、墓化、大清光緒二十五年四月立としてある。傳説によると、王喜と云ふ僧が座禪を引んだまゝ絶食仙化した。附近の住民は王喜を生きながらの廟さんとして塔を建て、諸々の祈願をした。すると靈驗あらたかなので靈應寶塔、或は大仙廟と云つて諸願の參詣人が絶えない、今でも道士と僧が附近に庵を構えて參詣人の接待をしてゐる。
 (印畫の複製を禁ず)
 (大同大仙廟の西門の南の三の九)

大同東門
 (蒙 疆)
 大同城の城壁には、東西南北に城門がある。城門は明の洪洪五年大將軍徐達が建築したもので、東を和陽門、南を永泰門、西を清遠門、北を武定門と云つて靈城(材形)の三層樓である。寫眞は東の和陽門であるが、今では何れも破損にまかせて見るかげもないが、按ずるに建築當初は大同文化の華かなりしころだから、輪奐の美を誇つたものであらう。
 (印畫の複製を禁ず)
 (大同東門の南の三の八)

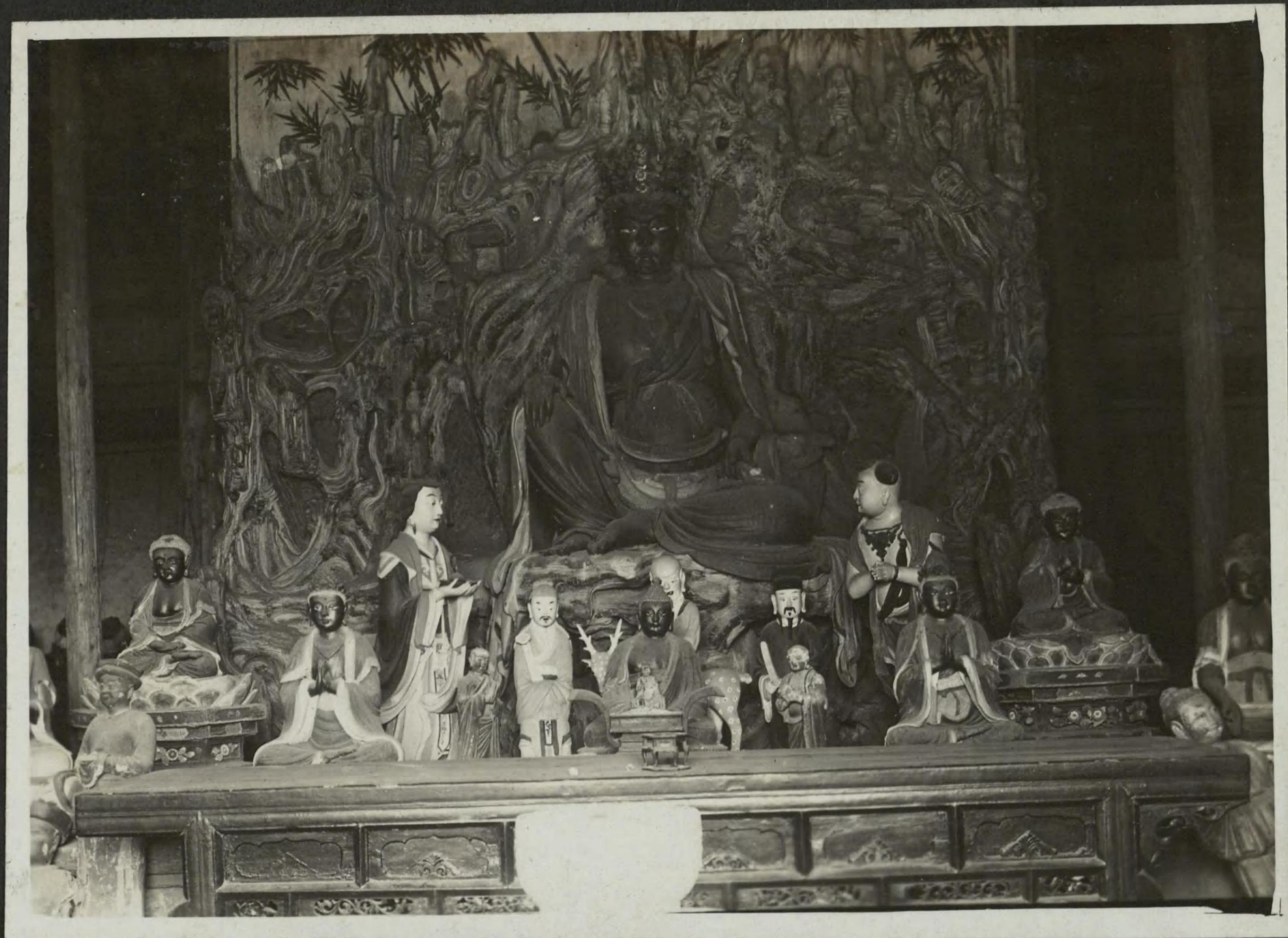
大同南善化寺の佛像

(蒙 疆)

南善化寺は大同城の東門附近にある。寺は金時代の創建で本堂内の裝飾は寫眞にも現はれてゐる如く頗る善美を極めたもので、その中に安置された佛像の美術的價値は相當のものである。

(印畫の複製を禁ず)

(亞細亞大觀十丘の第三回十)

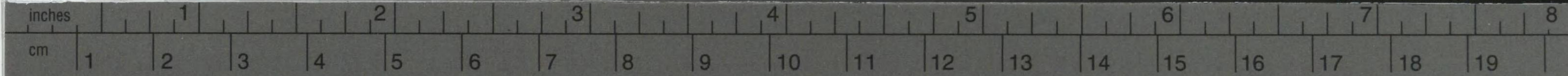


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

